

おぐる・かずまさ  
74年生まれ。一橋大博士(経済学)。財務省などを経て現職。専門は公共経済学



小黒一正 法政大学教授

## 医療体制とコスト ①

# 改革は優先順位付けから

### ポイント

- リスク大は共助でリスク小は自助基本に
- 改革は家計負担小かつ市場規模大を優先
- 革新的な医薬品の高額さは重要ではない

布などを把握した上で進める必要がある。

では、公的医療保険において最も改革の優先順位が高い領域はどこか。それは「年間の標準治療費が小さいが、市場規模が大きい領域」となる。この理由を簡単に説明しよう。

まず、公的医療保険の改革で優先順位を検討するとき、3つの変数がある。①「診療報酬」や「薬価」②「市場規模」③「患者1人治療費」である。

なぜなら、①の「診療報酬」や「薬価」は、医療機関や製薬会社などにとって収益面で一定の重要性があることは事実だが、見かけ上の変数にすぎない。むしろ、産業競争力の観点では、開発コストの回収のために売り上げの安定性が重要であり、イノベーション(技術革新)に資する医薬品の開発を促進するためには、市場投入後の一定期間、革新的な製品の市場規模を安定的に維持できるか否かが重要となる。

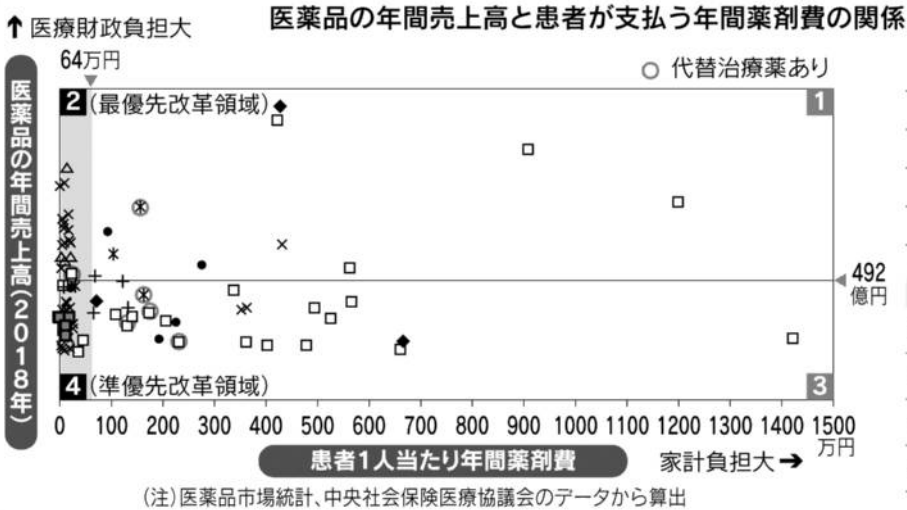
このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

製品数	売上(兆円)	
1	10	0.80
2	18	1.20
3	22	0.70
4	48	1.41

疾患領域	
□ がん	◆ 感染症
* 免疫	× 循環器・代謝
+ 骨・痛み	△ 中枢神経系
■ 呼吸器	● その他



(注) 医薬品市場統計、中央社会保険医療協議会のデータから算出

このため、②の「市場規模」は、保険財政の持続可能性と産業競争力のバランスを図る視点、また③の「年間の標準治療費」は財政的リスク保護の視点を提供するものであり、これらの方が重要な変数となる。さらに理解を深めるため、4タイプの医薬品を考察してみよう。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

①年間の標準治療費が小さいが、市場規模が大きいもの②年間の標準治療費が小さく、市場規模が小さいもの③年間の標準治療費が大きい、市場規模が大きいもの④年間の標準治療費が大きい、市場規模が小さいもの

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。

このため、保険財政の持続可能性の確保に責任をもつ財政当局はマクロ的な視点から、「市場規模」の大きい医薬品の回収が増加してしまつと、保険財政の持続可能性が低下する。